

2012 (H24) 年 1 月 10 日

報道関係各位

(財) 日本バスケットボール協会
広 報 部

平成 24 年度バスケットボール女子日本代表チーム コーチングスタッフ就任記者会見のご報告

拝啓 時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本日都内にて、平成 24 年度バスケットボール女子日本代表チーム コーチングスタッフ就任記者会見を実施いたしました。

平成 24 年度バスケットボール女子日本代表チームは、ロンドンオリンピック出場の最後のチャンスである「FIBA ロンドンオリンピック世界最終予選」に向け、最強の日本代表チーム構成を目指し、内海知秀ヘッドコーチ (JX サンフラワーズ)、丁海鎰コーチ (トヨタ自動車アンテロープス)、ならびに小嶋裕二三コーチ (デンソーアイリス) を選任し、一丸となった一枚岩のコーチ体制を構成しました。今後は 6 月 25 日 (月) から開催される「FIBA ロンドンオリンピック世界最終予選」での出場権獲得に向け、強化活動を行ってまいります。

つきましては以下のとおりお知らせいたします。ご多忙とは存じますがご配慮のほどよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

件 名	平成 24 年度バスケットボール女子日本代表チーム コーチングスタッフ就任記者会見のご報告	
役 職	平成 24 年度バスケットボール女子日本代表チーム ヘッドコーチ 内海 知秀 (うつみ ともひで) 所属: JX サンフラワーズ コーチ 丁 海鎰 (ちよん へいる) 所属: トヨタ自動車 アンテロープス 小嶋 裕二三 (こじま ひろふみ) 所属: デンソー アイリス ※詳細プロフィールは別紙参照	
記者会見内容	別紙参照	
問い合わせ	財団法人 日本バスケットボール協会 広報部 TEL: 03-3481-2347 / FAX: 03-3481-2399 / 携帯: 080-4426-6905	

平成 24 年度バスケットボール女子日本代表チーム コーチングスタッフ プロフィール

●ヘッドコーチ:内海 知秀(うつみ ともひで)

生年月日:1958(S33)年 12 月 7 日生まれ 53 歳 (青森県出身)

出身校:県立能代工業高校、日本体育大学

所属:JX サンフラワーズ

競技歴	所属	主な戦績等
1974-1977	県立能代工業高校	2 年連続で高校 3 冠(IH、国体、WC)達成(2 年時、3 年時)
1977-1981	日本体育大学	1978 年インカレ優勝(2 年時)
1981-1988	日本鉱業	1984 年 第 59 回全日本総合選手権 準優勝 1987 年 第 21 回日本リーグ 第 3 位 1988 年(昭和 63 年度) 年間ベスト 5 受賞
1981-1987	日本代表	1983 年 第 12 回アジア選手権大会 準優勝
コーチ歴	所属	主な戦績等
1988-2000	札幌大学(男子)	
2001-現在	JX サンフラワーズ ※旧ジャパンエナジー、JOMO	全日本総合選手権優勝 7 回 (2001、2002、2003、2008、2009、2010、2011 年度) Wリーグ優勝 7 回 (2001、2002、2003、2006、2008、2009、2010 年度) コーチオブザイヤー受賞 4 回 (2001、2002、2007、2010 年度)
2003-2004	日本代表	2003 年 第 20 回 FIBA ASIA 選手権 準優勝 2004 年 アテネオリンピック 第 10 位
2006-2008	日本代表	2007 年 第 22 回 FIBA ASIA 選手権 第 3 位 2008 年 オリンピック世界最終予選 準決勝敗退

●コーチ: 丁 海鎰 (ちよん へいる)

生年月日: 1958(S33)年 3月 20日 生まれ 53歳 (韓国出身)

出身校: 松都高、高麗大学

所属: トヨタ自動車 アンテロープス

競技歴	所属	主な戦績等
1973-1975	松都高校(韓国)	
1976-1980	高麗大学(韓国)	
1980-	現代(韓国)	
	軍隊(韓国)	
コーチ歴	所属	主な戦績等
1997-1999	日本通運	日本リーグ 2部優勝
1999-2001	国民銀行(韓国)	WKBL ベスト 4(2000)
2001-	トヨタ自動車アンテロープス	全日本総合選手権準優勝 1回(2009年度)、 第3位 8回(2002、2003、2004、2006、2007、2008、2010、 2011年度) Wリーグ準優勝 2回(2009、2010年度)、 第3位 2回(2008、2007年度) コーチオブザイヤー受賞 2回 (2008年度、2009年度)

●コーチ: 小嶋 裕二三 (こじま ひろふみ)

生年月日: 1967(S42)年 7月 23日 生まれ 44歳 (神奈川県出身)

出身校: 県立松陽高校、青山学院大学

所属: デンソー アイリス

競技歴	所属	主な戦績等
1983-1985	県立松陽高校	
1986-1989	青山学院大学	1988年インカレ準優勝
コーチ歴	所属	主な戦績等
1991-1997	NEC(コーチ)	
1998-2000	日本代表アシスタントコーチ	
1999-2000	鷺宮製作所(コーチ)	
2000-2008	山形銀行ヘッドコーチ	
2008-2009	デンソーアシスタントコーチ	
2010-	デンソーヘッドコーチ	全日本総合選手権準優勝 1回(2011年度)、ベスト 4(2010年度) Wリーグ 第3位(2010年度)

FIBA 女子オリンピック世界最終予選 大会概要

大会名称: FIBA 女子オリンピック世界最終予選

大会日程: 2012 (H24) 年 6 月 25 日 (月) ~ 7 月 1 日 (日)

開催地: トルコ・アンカラ

出場枠: 12 チームのうち、上位 5 チームが第 30 回オリンピック競技大会 (2012/ロンドン) の出場権を獲得する

参加チーム:

地区	チーム名	地区予選順位	FIBA ランキング
アフリカ	マリ	FIBA AFRICA 3 位	19 位
	モザンビーク	FIBA AFRICA 5 位	37 位
アメリカ	アルゼンチン	FIBA AMERICA 2 位	12 位
	カナダ	FIBA AMERICA 3 位	11 位
	プエルトリコ	FIBA AMERICA 5 位	24 位
アジア	韓国	FIBA ASIA 2 位	9 位
	日本	FIBA ASIA 3 位	15 位
ヨーロッパ	トルコ	FIBA EUROPE 2 位	21 位
	フランス	FIBA EUROPE 3 位	8 位
	チェコ	FIBA EUROPE 4 位	4 位
	クロアチア	FIBA EUROPE 5 位	31 位
オセアニア	ニュージーランド	FIBA OCEANIA 2 位	16 位

セネガル (アフリカ)、キューバ (アメリカ) の欠場により、モザンビーク、プエルトリコが繰り上げ出場。

予選ラウンドグループ: ※ドロー未開催 (2/15 にドロー開催予定)

グループ A	グループ B	グループ C	グループ D

競技方法:

【予選ラウンド】出場 12 チーム 3 チームずつの 4 グループに分け、1 回戦総当りを行い、各グループの上位 2 チームが準々決勝に進出

【準々決勝】予選ラウンド各グループ上位 2 チームの合計 8 チームで準々決勝を行い、それぞれの勝者 4 チームがオリンピック出場権を獲得
敗者は残りの 1 チームを決定するため準決勝を行う

【準決勝】準々決勝敗者 4 チームで準決勝を行い、勝者が決勝に進出

【決勝】準決勝勝者が決勝を行い、勝者がオリンピック出場権を獲得

FIBA サイト: <http://london2012.fiba.com/pages/eng/fe/12/olymp/index.html>

【平成 24 年度バスケットボール女子日本代表チーム コーチングスタッフ就任記者会見 式次第】

- | | | |
|---------------|----------------------------------|--------|
| 一、開会挨拶 | 財団法人日本バスケットボール協会 強化本部長 | 鈴木 秀太 |
| 一、コーチングスタッフ紹介 | 財団法人日本バスケットボール協会 女子強化部長 | 高橋 雅弘 |
| 一、就任挨拶 | | |
| | 平成 24 年度バスケットボール女子日本代表チーム ヘッドコーチ | 内海 知秀 |
| | 平成 24 年度バスケットボール女子日本代表チーム コーチ | 丁 海鎰 |
| | 平成 24 年度バスケットボール女子日本代表チーム コーチ | 小嶋 裕二三 |
| 一、強化活動について | | |
| | 財団法人日本バスケットボール協会 女子強化部長 | 高橋 雅弘 |
| | 平成 24 年度バスケットボール女子日本代表チーム ヘッドコーチ | 内海 知秀 |

【登壇者コメント】

■財団法人日本バスケットボール協会 強化本部長 鈴木 秀太

「今年オリンピックイヤーであります。昨年 12 月 7 日の理事会にてこのスタッフが承認され、女子日本代表チームはオリンピックに向けて活動を開始します。残されたチャンスである 6 月 25 日よりトルコで開催される世界最終予選で、何が何でもロンドンオリンピックへの切符を獲得するという意気込みで臨んでいます。今回のコーチたちは、Wリーグでは各ライバルチームのヘッドコーチ同士でもありますが、そういうことをさておいて日本のためにひとつになることが信条であります。大事なことはチームがひとつになることであり、戦う軍団を作ることが何よりも大事だと思っています。大変難しいスタッフ編成ではありましたが、高橋女子強化部長には『最大で最強のメンバー編成にしてください』とお願いをし、満足のいくコーチングスタッフを選んでいただいたと思っています。内海ヘッドコーチを中心として、丁コーチ、小嶋コーチのそれぞれの役割や持ち味をいかに発揮していただき、ひとつのチームとして戦ってほしいです。合わせて我々協会幹部も含め、内海ヘッドコーチの元できちっと役割を果たし我々を含めた女子日本代表チームという構成で臨みます。」

■財団法人日本バスケットボール協会 女子強化部長 高橋 雅弘

「実はすでに、コーチの方々の頭の中では強化活動が始まっています。各大陸選手権の映像を集めて、コーチの皆さんにお配りしています。ドロー（組み合わせ抽選会）が 2 月 15 日に開催予定ですので、いずれにしてもドロー（グループ分け）が決まってから具体的な対策が始まります。選手選考については、どの選手で勝負するか、どの選手が世界に通用するか、そしてアジアとの戦い方とは違う、対世界ということも含めて、分析しながらぎりぎりまで選手選考に時間を費やしたいと思っています。Wリーグ・レギュラーリーグが 2 月の 1 週目に終わりますが、ある程度の方向性づけをした形で第 1 次選考をしていきます。Wリーグ・ファイナルが 3 月上旬までありますので、日本代表活動開始までに候補選手たちが、どのように個人練習で強化できるか、各チームに協力をいただきながら行いたいと考えています。まずは 3 月 8 日以降に一度選手を集わせて、日本代表としての意識づけを行いたいと思っています。日本代表選手たちは、昨年、長崎県大村市で開催された FIBA ASIA 選手権から休み無く活動していますので、相当疲労が溜まっています。ピーク時期やリハビリ等を考えながら本格的な強化合宿は 4 月からを予定しています。」

■内海 知秀ヘッドコーチ(JX サンフラワーズ)

「この度、日の丸のヘッドコーチとしてお話をいただき、前回はヘッドコーチの大役を仰せつかりましたが、今回も同じような気持ちで非常に大きな責任を感じています。特にロンドンオリンピック予選へ向けて周りの方々も含めて時間が無いと仰られますが、その時間の無い中で何が必要なのかを早く始動しながら最強のチームを作って世界最終予選へ臨みたいと思っています。また、丁コーチ、小嶋コーチにおきましても、私の良き相談相手となってくれることだと思いますし、日本のバスケット界のために、ロンドンオリンピックの切符を獲得するために、過程を大事にしながら何よりも結果を大事にしたいと思っています。選手、日本バスケット界のために頑張っていきたいです。

日本のチームはこれまでも高さにおいて課題がありました。これを克服するには非常に難しい部分がいっぱいあります。しかし、高さへの対策はリバウンドだけではなく、反対にオフェンスの中でのスピードや確実性が重要視されてくると思っています。ターンオーバーの少ない、確率の高いオフェンスをし、ディフェンスでは高さに対抗する平面の部分にプラスして、いろんな戦術を使いながら対抗していきたいです。世界最終予選では高さの部分が一番のカギになりますが、オフェンスではいかにその高さをいかにかいくぐりながら外角シュートにつなげることができるか。ただ、外角シュートだけでは戦えませんので、相手より小さくてもインサイドで体を張って勝負するようなチームを作って対抗していきたいです。

そのためにも、ヘッドコーチとして私がしっかり責任を取りながら、2人のコーチとともにしっかりコミュニケーションを取り合い、これから選ばれる選手たちが日本代表としてどうしたら一番力を出せるのか、このチームで一番良いパフォーマンスをどう出せるかを3人で話し合い、戦術を作りながら戦って行きたいです。」

■丁 海鎔コーチ(トヨタ自動車 アンテロープス)

「韓国人として日の丸を背負うのは私が初めてです。それはうれしい気持ちもありますし、逆に心配なこともいっぱいあります。自分が入ってどれだけできるか分かりませんが、内海ヘッドコーチと小嶋コーチとともに、ロンドンオリンピックへ行くために自分ができることを精一杯やるだけです。

オリンピックの壁を突破するためにはディフェンスが一番必要だと考えています。日本の選手は小さいので、コート全体を使って戦わなければいけません。こう話すのは簡単であり、実際にプレイする選手は大変だと思いますが、徹底的に変わらないといけません。」

■小嶋 裕二三コーチ(デンソー アイリス)

「この度は大役を仰せつかり、重責を感じています。力不足で何ができるか分かりませんが、できることを精一杯やることでお二人を支え、チームの潤滑油のような役割になればと思っています。ロンドンオリンピック出場権を獲得することが使命となっていますので、それを果たせるように精一杯頑張ります。

また、コーチとして、私は選手の練習に付き合うことが第一だと思います。スカウティングをして良い情報をお二人や選手に伝え、コート内外で頑張りたいと思っています。」

以上